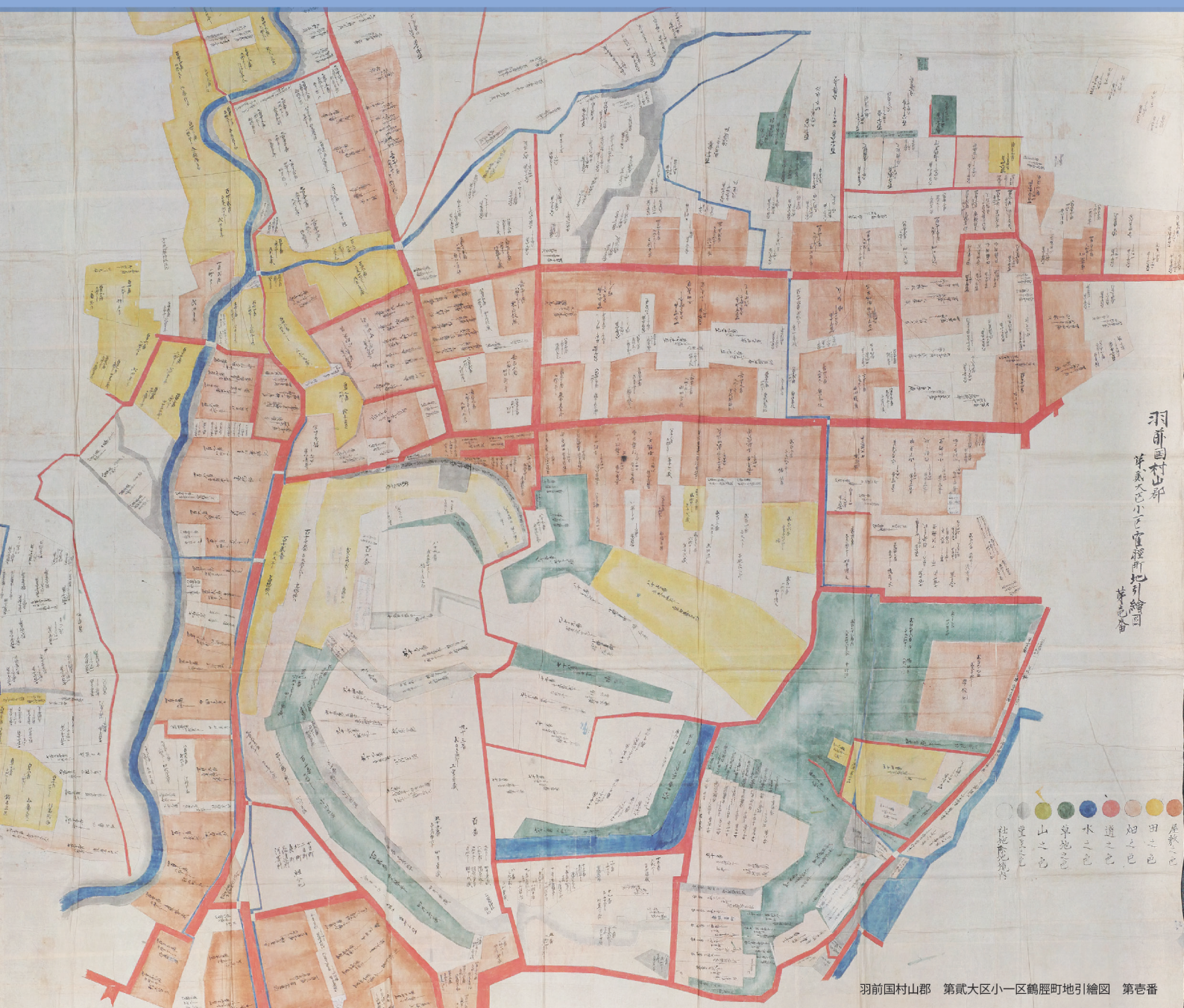




からみる上山

江戸から明治へー地引絵図を中心にー



会期 令和3年3月28日(日)～5月23日(日)
場所 上山市立図書館 上山市二日町10-25 二日町プラザ5階
主催 東北芸術工科大学 歴史遺産学科



絵図の撮影風景



江戸から明治へー地引絵図を中心にー

ごあいさつ

「^{じびきえず}地引絵図」は、明治新政府による新しい土地税制—^{ちそかいせい}地租改正のために作成された絵図です。明治8年の年記があり、土地の用途（宅地、田、畑など）や面積などが細かく記載されています。

この調査によって「^{ちか}地価」が定められ、土地の所有者は江戸時代までの「^{ねんぐ}年貢」等に代わり、その3%を税金として「^{きん}金納」するようになりました。

戦後の税制改革で地租は廃止され、現在では不動産登記簿に基づき、各市町村が固定資産税を徴収しています。土地台帳として作成された地引絵図は、町役場や市役所で「行政資料」として保管されてきましたが、新しい税、登記制度のもとでその役目を終え、上山市では平成25年に保管されていた20枚が税務課から上山市立図書館に移管されました。

私たちはこのたび、上山市立図書館のご好意で、館所蔵の地引絵図、古文書等を閲覧、写真撮影をさせていただくことができました。^{あざ}字ごとに描かれた絵図は最終的に大きな村絵図に合成され、大きいものは12畳敷きの広さがあります。

明治初期の土地利用の様子がビジュアルに描かれており、たいへん歴史的価値が高いものです。これらの絵図を長く後世に伝え、また「歴史資料」として活用するために、何枚もの細部写真をパソコン上で合成して、それぞれ歪みのない1枚の画像に仕上げました。

この機会に広く地引絵図の世界を知っていただくとともに、地域史研究にも役立てていただければ幸いです。

なお、展示では明治11年に上山を訪れたイザベラバードの紀行文や明治14年頃の街並みを描いた「上山戸別図」も併せて紹介しています。

本展示は、東北芸術工科大学歴史遺産学科が上山市教育委員会と連携協定を結んで実施している「社会教育実習」の一環として行いました。写真撮影から展示に至るまで一貫してご協力、ご指導を賜った上山市立図書館のみなさまに厚く御礼申し上げます。



歴史遺産学科2年 加藤彩花、柴田桃花、高橋芽生、土井愛夕美